

シグマ委員会遮蔽定数SWG 会合議事録

1. 日 時 昭和57年9月28日 13:30-17:30
29日 9:10-17:00
2. 場 所 研究2棟335号室及び304号室
3. 出席者 6名(敬称略・順不同)
菊池, 山野(原研), *橋倉(東大), 佐々木(MAYI),
萬代(IHI), 川合(NAIG)
(* オブザーバー)
4. 配布資料
前回議事録(7/12, 13, 8/24)
FS-82-23 "Integral test of Iron Data in JENDL-2 for Fast
Renctor Shielding Analysis-Summary-"
FS-82-24 KFK実験解析結果(山野)
FS-82-25 Winfrith実験解析結果(橋倉)
5. 議 事
 - 5.1 前回議事録の確認
 - 5.2 一般報告
第6回遮蔽国際会議の発表申込件数が国内の42件を含めて約180件を算えたので, 150件にしぼられる旨菊池委員から報告された。
 - 5.3 第6回遮蔽国際会議発表申込について
FS-82-23に基づいて, 当SWGの成果の発表申込みを行なった旨, 川合委員から報告があり, 承認された。
 - 5.4 KFKベンチマーク実験解析結果の報告
FS-82-24に基づいてKFKベンチマーク実験, 解析結果について山野委員から報告された。今後の課題として, JENDL-2とENDF/B-IV

の差がどの断面積から来ているか調べる為、非弾性散乱の感度解析を行なうこととした。

5.5 Winfrith ベンチマーク実験の解析結果の報告

FS-82-25に基づいて、Winfrith ベンチマーク実験の解析結果が橋倉氏から報告された。C/E値は、測定位置を考慮して以下の如く訂正された。

$^{32}\text{S} (n, p) \ ^{32}\text{P}$; C/E = 0.5-0.9 (前回 0.4-0.8)

$^{115}\text{In} (n, n') \ ^{115m}\text{In}$; C/E = 0.6-1.0 (前回 0.6-0.9)

$^{197}\text{Au} (n, Y) \ ^{198}\text{Au}$; C/E = 1.3-2.6 (前回 1.2-2.6)

但し、今回の解析モデルは、Winfrithで作成したモデルに順じているが、詳細検討の結果、線源部のモデルに粗さがある為、改めてモデルを作成し再解析する事になった。

5.6 集中作業

(1) Winfrith ベンチマーク実験の追加解析

Carterの論文を検討し、実験により忠実な解析モデルを作成した。
これに基づいて、断面積作成準備を行なった。

(2) ORNL ベンチマーク実験の解析

定数縮約の為、ANISNコードによる1次元Sn輸送計算を実行した。

5.7 今後の方針の検討

(1) FDEMコードの修正は、10月中に終了し、11月にはESPRITの計算
を実行する。

(2) 国際会議発表用論文の構想は年内に立て、4月上旬には初稿完成する。

以 上